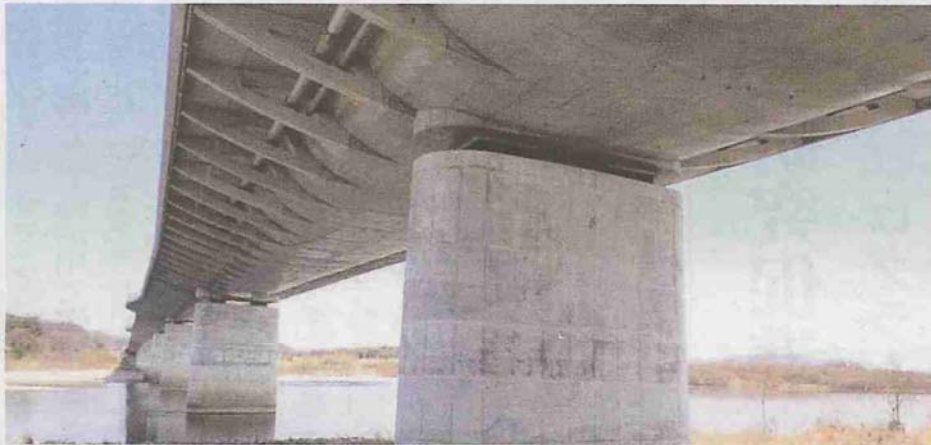


ロボット技術で事前に調査

各務原大橋の法令点検



各務原市は五年に一度の法令点検の対象である各務原大橋において、ドローン、ロボット技術を活用して、9月頭から近接目視による点検の事前調査に着手する。

各務原大橋は2013年5月に供用した橋長594・0mのPC10径間

ロボット技術点検支援

岐阜大学 指針案

岐阜大学はSIP実装プロジェクトとして2017年度からロボット技術を取り入れた橋梁点検に関して検討を進め、地方自治体向けにロボット

連続フィンバック桁橋。逆T式橋台2基(直接基礎)

岐阜大学による各務原大橋点検方法検討会では、歩道幅員が3m、歩車道境界にはフィンバック部材もあるため、一般的な大型橋梁点検車でも橋梁下面からの点検作業が困難であること、橋脚高が10m以上であり、桁下からの点検作業が難しい河川内径間P2とP9は懐幅が5m程度の超大型橋梁点検車、点検足場設置、高所ロープ作業による橋梁点検作業が必要

となり、コスト面での負担も大きい指摘されていた。

ドローンを事前活用することで、近接目視による点検において、大型点検車の使用日数が10日から4日に、点検費用も3000万円から2400万円に削減できる見込みだ。

今後のスケジュールとして11月まで、ドローン、ロボット技術を使用した事前調査を行い、近接目視の作業計画を策定後、12月から近接目視による点検を開始する。

技術を取り入れた橋梁点検指針(案)を今年4月に公表している。

同指針(案)はロボット

により取得した点検対象の損傷有無や程度に関する情報に基づき、近接目視を重点的に実施する部材や範囲を点検技術者

が決める事前調査に重点を置く。また基本的にコンクリート橋の点検を対象とし、ロボット技術の適用性や稼働時の制約条件、費用面などロボットによる橋梁点検支援の可能性を総合的に判断する必要があるとしている。